

昭和44年7月29日
教養部広報委員会

封鎖解除について全教養部学生諸君に訴える

教養部長事務取扱

岡 村 弘

封鎖解除の基本的態度

教養部教授会は、本年二月以来、大学の自治すなわち教授会の自治であるというこれまでの通念が誤りであることを認め、この反省に立って今後は教養部全構成員と協議し、その意思を反映させて大学の運営を行なうという基本方針を示し、この方針に従って改革試案を作成しました。その改革試案をたたき台にして学生、助手、事務職員と討議すべく積極的な努力を重ねてきました。しかし、去る6.28~29のいわゆる大衆団交の経験から、全教養部学生との理性的な話し合いを、ストライキ実行委員会（学生自治会暫定執行部）を通してすることはもはや不可能であるとの判断に達し、全構成員の意思を反映させて大学の改革を推進するためには現在の封鎖を解除しなければならないと決意せざるを得なくなりました。

封鎖解除の目的

もとより封鎖解除には学生諸君の多数の支持と協力が必要であり、現時点ではまだ踏まなければならない多くの手続きがあることは否定できませんが評議会の多数意見で封鎖解除の決定をみた以上、これに従がわないことは教養部構内の破壊と混乱を一層増大させ、紛争を泥沼化させる恐れがあります。この判断に立って教養部教授会は現時点で全学と共同歩調をとることになった次第です。

教養部教授会が以上の決定を下した主要な理由は以下の通りであります。

第一 に、当教授会の基本方針である大学改革を推進するためには、全構成員がキャンパス内に帰り、理性的な話し合いの場を持つことがどうしても必要であります。他の構成員の権利と意志を無視する少數学生による封鎖は、眞の大学改革を阻害するものと考えます。

第二 に大学の自治と学問の自由を根本的に脅かす大学立法は、何としても阻止しなければなりません。そのためには大学全構成員の一一致協力が絶対に必要であります。封鎖はこの必要条件を阻害するばかりか、行動のエネルギーを分散させ結果的に大学立法を促進する効果しか持ちえないと考えます。

第三 に去る三月のリンチ事件、教育学部の乱闘事件、6.28 団交時の暴行事件にもうかがえますように、封鎖の現状を放置するならば、人身傷害のみならず、人命事故の可能性さえ予想されます。これに加えて、封鎖が一般市民に多くの迷惑を及ぼしていることも否定できません、この状態が続くならば、大学の社会的責任を問われ、ひいては大学立法阻止への市民の協力と支持がえられなくなる恐れがあります。

第四 に封鎖解除がそのまま授業の再開に直結するものでは決してありませんが、多くの学生諸君が授業の再開を望んでいることもまた否定できない事実であります。この点についての学生諸君の多数意

見を確かめるためにも、全学生諸君の自由な意見表明の場がなければなりません、特に新入生諸君はまだ一度も意見表明の公的な場が与えられていず、また、第二課程学生諸君の多数は授業の開始を強く望んでおり、事実第二課程自治会（2年生）はストライキ決議を行っておりません。遅くとも8月下旬までに授業を開始しなければ、紛争に何ら責任のないこれら学生諸君は、留年、奨学金停止などの不利益を受ける可能性が強くなります。また大量の留年者が出た場合、来年度の入試に支障を來し、大学立法の成否にかかわらず我々は大学存亡の危機に立たされることになります。教養部教授会はこうした事態を絶対に避ける責任があるとの結論をえております。また大学改革は授業と並行して進めてこそ実効性を持つと考えます。

第五 に封鎖は教官のみならず、事務職員から職場を奪い、事務手続きを煩雑、非能率化することによって、事務職員に過重な負担を強いております。各所に分散を余儀なくされた事務職員は職場集会を持つことも困難であり、苛酷な労働条件に耐えきれなくなっています。教養部教授会は事務職員のこのような苦境をもはや放置しておくことはできません。

最後に教養部教授会は、封鎖派学生諸君の提起した全学四項目要求には、傾聴すべき部分があることは認めますが、彼らの主張するような方向での評議会、教授会の解体、およびその前提となるような全面的自己批判要求は到底これをうけいれることはできません。また要求実現のための封鎖その他の暴力行為はいかなる意味でも正当化されえない不法行為と考えます。こうした行動は、結果として、上からの権力による大学解体を導き出す可能性があります。

教養部学生諸君は、以上の諸点を十分に考慮された上で、教養部教授会が封鎖解除を決意せざるをえなくなった事情を理解され、協力されるように強く要望致します。

訂 正

さきにお配りしました広報第6号にミスプリントがありますので訂正します。

	誤	正
4頁	10行目 以下32名の	以下33名の
5頁	19行目 個人テロを加える	「個人テロを加える」
9頁	中村五郎は学生委員の誤り	